

「縄文杉に会いに行く！」

No.37 鴛海拓也

(トレッキング編)

2008年にGTCの「壮年登山隊」の隊員(松本、長田、三阪、高祖、元田、大土さんら6名)が本格的に「白谷雲水峡～縄文杉～宮之浦岳～紀元杉」のコースを1泊2日で登頂している(詳しくは、機関誌54号を参照)。

私も一度は「もののけ姫」の世界を覗いて見たいと思っていた。

5月14日(土曜日)晴れ

2泊3日の「まるごと屋久島探訪の旅」のオプションで、家内と一緒にトレッキングを申し込む。気になっていた天気も回復傾向にあるが、「屋久島」の天候は当てにならない。お天気を祈りつつ「福岡空港」から直行便で1時間10分。午後2時過ぎにローカルな「屋久島空港(※1)」に到着。今日は落差88mの「大川(おおこ)の滝」、400m×200mの巨大な花崗岩の一枚岩が横にある落差50mの「千尋(せんびろ)の滝」を見てから宮浦港近くの「旅館(田代別館)」入りとなる。古い旅館であるが横に「宮之浦川」が優雅に流れていて気持ちが落ち着く。現地の焼酎も取り揃えてあったが、翌日が早いのでビール1本で我慢して就寝。

5月15日(日曜日)くもり

午前4時5分の旅館出発のために午前2時に起床。朝食は「おにぎり弁当」をもらって登山口で食べるそうだ。バスは定刻通りに出発するが2名を乗せ忘れたとの事で旅館に逆戻り。誰が乗客を管理しているのかと思ったが、無事に帰りつく事が目的なのでここでは感情を鎮める。海沿いの県道から「荒川登山口」までの登りはバスで40分を有する。次第に明るくなり雄大な原生林に取り囲まれている事が分かる。

ツアー参加者14名の中、8名がトレッキングを申し込んでいた。6名に1人の山岳ガイドが付くと言う事で、私達2名だけが他のツアー客と合流。結局、私達は他5名のメンバーと一緒に山岳ガイド(※2)に案内してもらう事になるが、後で凄い事が分かる。

「荒川登山口」①

ここで朝食と聞いていたが私のトイレ中に説明があったらしく、座り込んで弁当を広げると私達のグループはまだ先で食べると言う事だったので慌ててかじりついたおにぎりを元に戻す。スタート地点から線路の中央に板を敷いてある「トロッコ道」を歩き出す。20分後「大山祇神社」で一同の道中の安全祈願をする。その後20分で「古杉谷集落跡」辺りの休憩場所で朝食を済ます。想像以上に「トロッコ道」は長く、全長は8.3kmもあるそうだ。

「大株歩道入口」②

「トロッコ道」の終点でもあり、登りの出発点となる。休憩と共に快適なトイレで用を足す。この後もバイオトイレが3~4箇所あるので女性の登山者にも安心である。①~②の行程はマップによると2時間25分だった。

ここからは木の階段が設置してあるが、勾配の急な所を登ったり下ったり、小さな川に架かる橋をいくつも渡る。手摺りのない場所もあるので気を付けなくてはならない。

「ウイルソン株」④

屋久杉の大切に株。推定樹齢は3000年とされる。1586年に豊臣秀吉の命により切られたと言われるが、周囲13.8mの切り株は結局運び出されなかったと言われる。中は10畳程の広さであり、神を祭る祠がある。上を覗くとインスタ映えのするハートに見える場所がある。③~④の行程30分。

「大王杉」⑤

「縄文杉」が発見されるまでは最大の屋久杉と言われていた。④~⑤の行程は40分とあるが、最大の勾配が3か所ほどあって「地獄の1丁目~3丁目」とも言われる。ここで昼食を済ませ、山岳ガイドの提案で背中リュックをここに置いて「縄文杉」を目指す。

「縄文杉」⑥

最終目的までの⑤~⑥の行程は30分。以前はすぐ傍まで行けたみたいだが、今は3つの展望デッキがあるので全景をカメラに収める事は出来なかった。



(※1)「屋久島空港」には「管制塔」がないので、代わりに役に立っている電波発信をする

施設。空港南側にあり、バスガイドが教えてくれるまでは何の建物か分からなかった。

(※2) 山岳ガイドは「島津康一郎」と言う方だった。

まずは歩き方、登り方、降り方などのレクチャーを受ける。当初は、ランニングとウォーキングをしている私には無縁のものと思われた。膝を伸ばしてしまわない、脱力する、音を立てないなどまるで忍者の修業をしている様におもわれたが、今まで「ハアハア」言っていた体格の良い女性の息切れが無くなり私達、山岳ガイドを含めた8名が前に居るグループを次々と楽にパスする事が出来た。翌日もほとんど筋肉痛が残る事が無かった。

何とこの方はこの山歩きの方法を実践するために、2007年に「日本百名山」を48日で連続踏破した記録を持っていた。残念ながらこの2014年に、他の山岳ガイドに33日の記録で破られた。

「縄文杉」からの下山

「大王杉」でリュックを再び担いでの下山。島津さんは林業も営んでいたもので、木の伐採法、花の名前、苔の種類など時間に余裕があった分、色々な事を教えてもらった。また、間近に「屋久シカ」を見る事も出来た。

5月16日(月曜日)小雨

今日の観光場所は「志戸子(しとこ)ガジュマル公園」の一か所のみ。樹齢500年以上の巨大ガジュマルをはじめ亜熱帯の植物が多く見られる。また、前の湾では「アカウミガメ」が泳いでいた。初日に道路で「屋久島サル」も見ていたので大満足の旅であった。

(情報編)

「屋久島」は面積の9割を山地が占める島である。降水量は日本の平均の6~9倍と言われる。栄養の乏しい「花崗岩」が隆起して出来た島であり、新鮮な水に恵まれるがこの環境が「屋久杉」を生んでいる。日光東照宮の参道にある「日光杉並木」では360年で直径150cmを超えるが、「屋久杉」は1660年で180cmしか育たない。その分、年輪は緻密で堅固な木になる。

「焼酎川」があると言う。以前、本当に焼酎が流れていた事があった。事実はこの川の上流で焼酎の密造があり、幕府の見回りなどがあると直前にばれない様にその焼酎を慌ててこの川に流したそうである。

また、「地焼酎」はこちらでも流通している「三岳(みたけ)」である。もう1社が焼酎を作っていると言うが、鹿児島島から進出して来た酒造会社が製造しているらしい。ちなみに「宮之浦岳」、「永田岳」、「栗生岳」を合わせて「三岳」と言うらしい。本当に上手い焼酎である。

バスに乗っているとお墓にきれいな花がきちんと捧げてある。こちらの特別な法事の後なのだろうかと思っていると、こちらの方は先祖を大切にするので毎日「お墓参り」をするそうだ。多い人で1日3回。なので「お花代」は毎月2~3万円かかるそうだ。

「雲仙湯~YOU マラソン」の参加賞で「じゃがいも」をもらってから長崎県の生産量が全国2位と聞いて驚いた事があった。また、ここ(鹿児島県)は静岡県に次いで「お茶」の生産量が全国2位である。ちなみに「八女茶」が有名と思っていた福岡県は全国6位である。残念・・・。

今回、レンタルの登山用品を利用せずに自分で持って行った為に荷物が倍に増えてしまった。向こうで借りても良いのだが、自分にあったシューズやレインウエアを装着して快適に山に登りたい。帰りの旅館で、レンタル業者にリュックが破れていると苦情を言っている人を見かけた。

屋久島の北西部に「永田いなか浜」というウミガメの産卵で有名な砂浜があり、「ウミガメ観察会」なども行われているみたいだ。ウミガメは1回に120個の卵を産んで1シーズンに500~600個産むと言われているが、生存率は5000匹に1匹(0.02%)と言う事だ。英語の教科書で世界に4つの大きなプラスチックの島が出来てあり、どれも日本の面積より大きいと載っていた。ウミガメがクラゲと間違えて捕食する(※3)。「脱プラスチック」も大切だが、自然を守る為にまず、人間がゴミを捨てて、環境破壊しない方が大事だと思う。



(※3) ユネスコが「世界遺産(文化遺産や自然遺産など)」の登録を進めているが、人間は気持ちに余裕が無くなってくると相手に優しく出来なくなる。この事がエスカレートすると戦

争に発展する。自然に触れて、美しい景色を見て心に安らぎを与えて穏やかな気持ちになる事も目的の一つだと屋久島を見に来たユネスコの方が言っていたとの事だ。納得!

(画像編)



「屋久島サル」
逃げません。我々がお邪魔しています(笑)



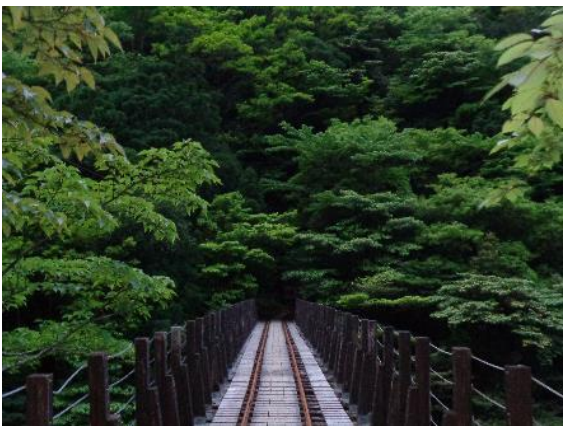
「大川(おおこ)の滝」
花崗岩の島に降った雨は一気に海に流れ込む



「千尋(せんぴろ)の滝」
遠くに見える山肌を見ても花崗岩の島である



「荒川登山口」
ここから8.3kmの「トロッコ道」が始まる



「トロッコ道」



「小杉谷集落跡」



「ウイルソン株」の中からの風景



「もののけ姫」の世界観



「苔のむす森の風景」



「飲用出来る綺麗な水」はそのまま海へ流れる



スマホで慌てて撮影した逃げない「屋久シカ」 湾に住み着いている「アカウミガメ」



(最後に)

ツアーの中日に「トレッキング」に参加して、家内も私も大満足の旅であった。屋久島を訪れる方は、是非「縄文杉」を見て帰ってほしい。バスでも「ヤクスギランド」や「紀元杉」なども見る事は出来るが、空気の美味しい大きな自然の中を体験してほしい。私の場合、自分の小さな存在に気が付いたり、自然を守る大切さや、わざわざ汗をかく大切さなどが再認識できた。